

同志社大学教授 李長波

その間、近代日本語教科書の研究は長足の進歩を遂げたことと、既刊十四巻に収録した教科書が数多くの研究に活用されたことに大きな喜びを感じながら、いつそう選集の最善を尽くすべき責任を負う結果となりました。望外の喜びを越えて嬉しい悲鳴でした。いまにして振り返れば、近代は、すべての始まりでした。日本語教科書も例外ではありません。

本補遺編には、日本人による、日本人のための教科書には、『沖繩対話』のほか、小学生向けの会話を収録しました。これらの教科書の、口語のみならず、ところどころ古語や英語直訳の日本語を垣間見るにつけ、日本語話し言葉の近代化の、ごく初期ならではの、初々しい姿が窺われて微笑ましいかぎりです。そして、既刊及び本補遺編の編集を通じて、編者が勉強になったのは、日本と中国が、時を前後して、書き言葉と話し言葉の近代化の道筋を、ほぼ同じ歩調で歩んでいたことを再認識したことでした。

日本語教育史、日本語学史、日本語史、日本語文體史、日本語の國際化の歴史、異文化コミュニケーション並びに關連分野の研究者に、謹んでお送りいたします。

會話書、教材、研究書によって明らかにすることができるであろうと考える。

② 日本語教育機関及びその教師の手になる日本語教科書に並んで、沖縄での日本語教育の教材『沖縄対話』を採った。これによって、当時の沖縄語と本土で用いられる日本語との対照研究の資料を提供した。

④ 小学校低学年向けとはいえ、日本人による日本人のための日本語教科書を探った。これによって、明治初期の国語教育における会話書の実態を知ることができただけでなく、その教材の中には、文語、口語、ひいては英語直訳調の文章が用いられている、という日本語の話し言葉の近代化の、ごく初期ならではの事情を知るのに役立つであろうと思われる。

⑤ 本補遺編に収めた教科書は、編者の国籍や教学対象の如何に関係なく、日英語日清、日中言語の対照研究のための資料としてその価値を同じく有するものであるで、これらの資料、もちろん本補遺編のみならずその他の関連資料をあわせて用いれば、英語という大きな外国語の影響下にあつて、日本、中国では、書きことばの近代とともに、話し言葉の近代化の道筋、両者間の影響関係を、会話書、教材、研究書によって明らかにすることができであろうと考える。

SAMURAI.—Sôku! koko wa Nip'-
pon da! Nip'pon de wa m'ma
kara orinai-to, kit'te shimau zo.

*Is it! This is Japan; and in
Japan if one doesn't dismount we
cut him down!*

▲成城学校の教科書から「蛭蟲」。
 (『日文教程』明治36年刊、第3編第48課)【第3巻】

③松本亀次郎著「漢譯日本口語文法教科書」(大正8年初版、昭和13年5月訂正増補第18版)【第4巻】

【文学・言語研究資料シリーズ 5】

近代日本語教科書選集

補遺編 全4巻

■ 編集・解説：李長波（同志社大学教授） ■ 体裁：B5判・上製・総約2,500頁
 ■ 定価：137,500円（本体125,000円＋税）ISBN978-4-910672-60-1 C3381

第1巻

- ・ One thousand familiar phrases in English and romanized Japanese / by John Liggins, second edition, New York: Houghton, 1867.
- ・ Familiar dialogues in Japanese with English and French translations for the use of students, by R. Alcock, Trübner & co, 1863.
- ・ Conversations in Japanese & English: compiled for the use of visitors and residents, by J. F. Lowder, Yokohama: Printed at the "Japan Times" office, 1867 [慶応3]
- ・ 『童蒙讀本會話編』初編・二編・続編 市岡正一著 出版者 市岡正一 明6.5-6.8
- ・ 『太田氏會話篇』全二巻 二冊 太田隨軒編 太田隨軒藏版 明治6.8 [1873.8]
- ・ 『童蒙會話編』一冊 大川堂主人編 誠之堂 明治6.11 [1873.11]
- ・ 『小學會話篇』全二冊 上羽勝衛纂 大觀堂藏版 明治7.2 [1874.2]
- ・ 『小學會話之捷徑』井出猪之助輯 上巻・下巻 [付録] 二冊 大阪：文敬堂 明治7.6 [1874.6]
- ・ 『日本會話』巻1 一冊 著者 中村最文著 出版者 島屋平七等 明治7.7 [[1874.7]
- ・ 『日本會話篇』巻1, 巻2 二冊 橋爪貫一編 出版者 玉山堂 明治7 [1874]
- ・ 『童蒙會話編』初篇 一冊 田中岩太郎著 森田文蔵 明治8.1
- ・ 『皇朝會話篇』全 一冊 西野古海著 二書堂 明治8.2
- ・ 『沖縄對話』二巻 明治15 (1882) 沖縄縣學務課編纂；[上], [下]、一改正再版一 沖縄縣, 1882.10. [正誤表附]
- ・ Japanese colloquial texts with translations and notes, by Lloyd, Arthur, London: Kegan Paul, Trench, Trübner & Co., etc., 1890

第2巻

- ・ 『東語簡要』玉燕居士編、光緒10 [明治17/1884] 年刊
- ・ 『東語入門』陳天麒編、光緒21年 (明治28/1895年) 刊 (石印本)
- ・ 『東語正規』唐寶鐸・戢翼翬著 一作新社、光緒32年1月 [明治39.1/1906.1] 刊
- ・ 『廣和文漢讀法』(普通東文速成法) [嚆隱主人] 著 光緒28 [明治35/1902] 刊
- ・ 『東文典問答』丁福保編 屈璠校 上下二冊 文明編譯書局 光緒27 [明治34/1901] 序刊
- ・ 『漢譯學校會話篇』菊池金正著 東京：誠之堂書房、明治39 (光緒32/1906) 年刊
- ・ 『實用會話篇：中日對照』唐木歌吉著 王盛春訳 中東書局、明治39.12 [1906.12] 年刊

第3巻

- ・ 『日文教程』第一篇～第四篇 成城学校編 成城学校出版 明治36.2 [1903.2] 刊
- ・ 『東語眞傳』全 泰東同文局撰 泰東同文局出版、明治36.3 [1903.3] 刊
- ・ 『日本俗語文典』吳初・孟先編 光緒31年 [1905年/明治38] 刊

第4巻

- ・ 『日本語教科書』宏文學院編 東京：金港堂書籍、1906.6-8 [明治39.6-8] 刊
- ・ 『漢譯日本口語文法教科書』松本龜次郎著 東京 笹川書店 大正8 (民国7) 初版 昭和13年5月訂正増十八版

〈おすすめ先〉 日本語学・国語学・言語学・日本語教育学・近代文学・中国語学・中国文学の研究者・大学・短大図書館／公共図書館など

クロスカルチャー出版
 学術図書

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6
 TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708
 e-mail: crocul99@sound.ocn.ne.jp

取扱書店

推薦します

『近代日本語教科書選集 補遺編』刊行に寄せて

木村 一（東洋大学教授）

『近代日本語教科書選集 補遺編』全4巻が刊行されることとなった。『近代日本語教科書選集』全14巻が刊行されたことも記憶に新しいのではあるが、すでに15年の月日が経ったとのことである。時間の経過とともに研究を取り巻く周辺環境も大きく変わりつつあるが、文献資料を活用して時間と空間を往来することには変わりがない。そして、同時に何をどのように調べ、考えていくかの指針を必要としている。

しかしながら、時として豊富な余り、方向性を見失うことがある。あたりを付けると言っても良いのかもしれないが、資料の性格を把握するために、どこをどのように見るべきなのかを把握することはそれぞれに異なり、とても難しい。『近代日本語教科書選集 補遺編』は既刊の『近代日本語教科書選集』と同じく、研究を進める上で欠くことができないさまざまな性格を持つ資料を一堂に確認することができる。そして、細やかで行き届いた「解説」と、関連する事項を網羅した「参考文献」を提示してくれているため、思いがけない関連などに気づかされる。数例にすぎないが、「ヘイ」とするのか「ハ」とするのか、時刻をどのようにとらえていたのかなど、当時の日本語をそのまま保存している側面がある。正誤の判断も欠くことができないが、萌芽ともいえる新たな語彙・語法を収録しているのととらえることができるものも多く含まれている。そして、時に「解説」は極めて慎重に、会話が躍動感あふれる話ことばの実態を示しているのか、規範的に記載されているのか、その状況（使い分けとも）について解説を加えている。

「解説」を頭の中に蓄えた上で、資料と対峙できることはありがたい限りである。当時の日本語を書きとめるとともに、英語や中国語（漢文）も記されているため、誰によって、誰のため、何のため、といったことに留意しながら、どのように日本と海外が接しようとしていたのか、そして相互に影響を授受していたのかを知ることができる。また、それぞれの教科書が日本語学の資料としてはもちろんのことであるが、読み物としても興味深く、日本の制度、風習・習慣そして風俗、また関心事などを紐解く資料としても活用できる。

今回刊行された『近代日本語教科書選集 補遺編』が加わることで、既刊の『近代日本語教科書選集』とあわせた18巻が、これまで以上に相互に深く連動し、近代日本語教科書、さらには近代日本語の羅針盤としての役割を十二分に果たしてくれることを心から期待したい。



近代日本語教科書選集

全3回配本 [全14巻] 好評発売中

■編集・解説／李長波（同志社大学准教授）

■定価：本体370,000円＋税 ■体裁 B5判・上製・総約7,000頁

第1回配本(全5巻)

定価：本体120,000円＋税 総約2,200頁（2010年2月刊行） ISBN978-4-905388-00-5 C3381

- 第1巻 ・An elementary grammar of the Japanese language: with easy progressive exercises / by Tatui Baba. London: Trübner, 1873
・An elementary grammar of the Japanese language: with easy progressive exercises / by Tatui Baba: with an introduction by Arthur Diósy. 3rd ed. / revised by G.Ukita. London: Kegan Paul, Trench, Trübner, 1904
・Colloquial Japanese, or, conversational sentences and dialogues in English and Japanese, together with an English—Japanese index to serve as a vocabulary and an introduction on the grammatical structure of the language / by S.R.Brown. Shanghai: Presbyterian mission Press, 1863
- 第2巻 ・An introductory course in Japanese / by Clay MacCauley. Yokohama: Kelly and Walsh, 1896
- 第3巻 ・『言文対照漢譯日本文典』松本龜次郎 中外圖書局 明治37年
・『日語指南』金井保三 丁酉社 明治38年
- 第4巻 ・『実用東語完璧』新智社編輯局編 新智社 明治38年
・『東語集成』金太仁作 東亜公司 明治39年
- 第5巻 ・『漢譯日語文法精義』高橋龍雄 東亜公司 明治39年
・『日語用法自習書』渡邊直助・楊汝梅 清国学生会館 明治40年
・『日語活法』大宮貫三 早稲田大学出版部 明治40年



第2回配本(全5巻)

定価：本体130,000円＋税 総約2,700頁（2010年6月刊行） ISBN978-4-905388-06-7 C3381

- 第6巻 ・Kuaiwa hen, twenty-five exercises in the Yedo colloquial, for the use of students, with note / by Ernest Satow ; pt. 1. 2: Notes and paradigms. Yokohama : Lane, Crawford, 1873. 初版
・『春秋雜誌 會話篇』=Kuaiwa hen Japanese text : Part III (1), Part III (2). 18
・『春秋雜誌 會話篇』=KUAIWA HEN III PARTIE Texte Japonais, EXERCICES I-XXV
・『交易問答』加藤弘藏 上・下 谷山楼 1869. 初版
- 第7巻 ・『和文漢讀法 附譯書語彙編叙例』梁啓超原著・沈翔雲編 勵志會譯書處 1900. 初版
・『和文漢讀法』梁啓超原著・夢花盧氏增刊[出版地不明][刊年不明]
・『東文易解』大矢透 泰東同文局 1902. 初版
・『日清對照清人適用日本語典』井上友吉 青山堂 1905. 初版
・『日英語比較研究』A comparative study on English and Japanese languages 中村小次郎 早稲田大学出版部 1905. 初版
・『日本文典課本』大矢透 泰東同文局 1905. 初版
・『漢譯日語階梯』松下大三郎 誠之堂 1906. 訂正第4版
- 第8巻 ・『日清對譯實用日本語法』岸田蒔夫 明文堂 1906. 初版
・『日本文典講堂問答』菊池勉 中和堂 1906. 初版
・『日清對譯編』松平康国 東亜公司 1907. 初版
- 第9巻 ・A short grammar of the Japanese spoken language, 2nd ed./ by W.G.Aston : Belfast : F.D. Finlay, 1871. 第2版
・A short grammar of the Japanese spoken language, 3rd ed./ by W.G.Aston : London : Trübner, 1873. 第3版
・A grammar of the Japanese written language with a short shrestomathy / by W.G.Aston : London: Phoenix, 1872. 初版
・Wa and Ga / William Imbrie : Tokyo : Kyo Bun Kwan, 1914. 初版
・『和漢英對照文法』田森長次郎 早稲田大学出版部 1913. 初版
- 第10巻 ・『日語全璧』文求堂編輯局編 文求堂書局 1930. 再版
・『日華對譯現代日本語會話文法』堀越嘉博・浅井周治 大連:大阪屋號書店 1940. 增補第15版



第3回配本(全4巻)

定価：本体120,000円＋税 総約2,100頁（2011年6月刊行） ISBN978-4-905388-35-7 C3381

- 第11巻 ・Prendergast's Mastery System, Adapted to the study of Japanese or English / by S.R. Brown, F.R. Wetmore, 1875
・Handbook of English—Japanese etymology / by William Imbrie, Tōkiyō: Torindow, T.Ishikawa, 1884. 初版
・Handbook of English—Japanese etymology / by William Imbrie, Tōkiyō: Z. P. MARUYA AND Co., Limited. 1889. 第2版
- 第12巻 ・『交易問答』:全 / 加藤弘藏著[出版地不明]:[出版者不明], 1881.9. 初版
・『にほんごとくほん』浦潮斯徳東洋語学校編 Владивосток: Восточный Цздательство, 1901. 初版
・『東語初階』泰東同文局編 東京:泰東同文局 1902.8. 初版
・『日語獨習書』郭祖培・熊金寿著・村上忠遵閱 大阪:東文学堂 1903.8. 初版
・『日語捷徑一名文法栞』長尾永五郎著・和田純閱 東京:誠之堂 1905.2. 初版
・『漢譯日語要覽』松村政親著 東京:岡崎屋書店 1906.6. 初版
・『東語簡要』葛夢樸編 東京:細川小三郎 明治 1906.10. 初版
- 第13巻 ・『文法應用東文漢譯軌範』門馬常次著 東京:東亜公司 1906.7. 初版
・『新式東語課本』一編 中堂謙吉著・伊澤修二閱 東京:泰東同文局 1906. 初版
・『新式東語課本』二編 中堂謙吉著・伊澤修二閱 東京:泰東同文局 1907. 初版
- 第14巻 ・『東語自得指掌 又名日本語獨案内』文求堂編輯局著 東京:文求堂 1907.7. 初版
・『東語會話大成』井上翠著・松雲程閱 東京:国文堂書局 1907.4. 初版
・『漢譯對照 日語讀本』小山左文二著 東京:三松堂書房 1907.6. 初版
・『新撰東語指南 又名日本語獨案内』文求堂編輯局編 東京:文求堂書店 1917.6. 初版



既刊『近代日本語教科書選集』（全14巻）を推薦します

近代の息吹を伝える貴重な資料群

永澤 済（上智大学言語教育研究センター教授）

『近代日本語教科書選集』は、画期的な資料集である。主に外国人に向けて、英語や中国語で書かれた日本語教科書類をととして、近代の新しい日本語観を伝えている。

そこに示される日本語文法は、前近代の国学系の見方とも、現代の分析とも異なり、多くの点で過渡的な面がみられ興味深い。たとえば、Aston、Baba、Brownらの著者による品詞分類では、「Preposition（前置詞）」や「Postposition（後置詞）」といったカテゴリーを立てているが、それらは現代の「助詞」に相当する。また、「Gender（性）」の概念が日本語にあるか、といった西洋文法の枠組みがそのまま持ち込まれたりもしている。一方、動詞の活用体系を大きく三分類している点などは、現代の、外国人向け日本語教育や学校文法（いわゆる五段活用／一段活用／変格活用といった分類）の分類法と重なり――活用の説明に不正確な点はあるものの――文法規則の発見・整理という点で先進的な分析が光る。

本選集に取り上げられた著者のひとり、馬場辰猪は言う。「口語日本語は、思想や知識を伝え得る体系的な文法を備えており、国民への普通教育の手段として十分に完成されている、そのことを示すためにこの文法書を書いたのだ」と。これは、森有礼らが唱えた「日本語廃止・英語採用」論に対する鋭い批判であった。馬場自身は、格調高い英文を書き、John Lockeらの著述を自在に引用するほどの英語力をもっていたが、普通教育はあくまでも母語で行われるべきとの考えであった。彼は、習得の難しい英語を普通教育の手段として強いることにより教育格差が生じ、一部の人たちが社会から締め出されてしまうことを懸念したのである。彼の鋭く温かい眼差しは、現代社会に照らしても新鮮である。

本選集に採られた教科書は、それぞれに個性が光るが、個々の著者の日本語観を比較しつつ、それらがなぜ、どのような観点で整理されたものなのかを考察してみることは、思想、言語、歴史、社会、教育といった様々な分野において示唆的であろう。近代日本と海外との文化交流の様子も垣間見える。私たちはそこに、混乱と希望の渦巻く近代の息吹を実感するのである。専門家のみならず、日本語と日本文化に関心のある国内外の読者に一読をすすめたい。

近代日本語教科書選集

補遺編

解 説

李 長 波

(同志社大学教授)

●『近代日本語教科書選集 補遺編』解説抜粋●

第1巻:

①日本會話 巻1 一冊 中村最文著 出版者:鳥屋平七等 明治7.7 [1874.7]. [32丁]

- ・吾^ワレハ、常^ツニ、六時半^{ロクジハ}ニ、オキマスル。汝^ニジノ、兄^{イニ}弟^{テイ}ハ、ドコニ、オイデ、ナサイマス。/彼^{カレ}ハ、未^{マデ}ダ、オキテ、マイリ、マセン。(巻一:三丁)
- ・何^{ナン}ナ、ウツクシキ、朝^{アサ}ヨ。(巻一:四丁)
- ・夫^ソレヘ、坐^{イマ}セ、君^{キミ}ヨ。(巻一:五丁)
- ・ドウゾ、牛乳^{ユウルク}ヲ、ワヅカ、與^ユヘヨ。(巻一:五丁)

これらの用例のなかで、「デ^デ有^{アル}ル」に加えて、「デ^デ有^{アル}ツタ」も使われているのは、その由来を考えれば、英文和訳の流れを汲むものと見てよさそうである。特に「夫^ソレヘ、坐^{イマ}セ、君^{キミ}ヨ。」や「茲^{ココ}ニ、有^{アル}ル物^{モノ}ガ、アル。君^{キミ}ヨ。」、英文訓読の名残を思わせるなど、全体的に英文よりの日本語、しかも文語「吾^ワレ」「汝^ニジ」に加えて「彼^{カレ}」も混じるなど、それだけ同時代の日本語の話し言葉からの隔たりは大きいのは、いかんともしがたい。

内容見本① 中村最文著『日本會話』(明治7年7月刊)五丁……………

第2巻:

②實用會話篇:中日對照 唐木歌吉著 王盛春訳 中東書局 明治39年12月 [1906.12] 刊

本書は、張君、李君二人の日常生活の場面を二十五回に分けて、それぞれ

乗車語、訪問語、旅館語(一)、閑話、旅館語(二)、旅館語(三)、旅館語(四)、雑語(一)、早晨應答語、誘引語、出門語、歸家語、雑語(二)、旅館語(五)、閑話(二)、買物語(一)、買物語(二)、歸宿語(二)、閑話(三)、理髮語、雑語(三)、入學語(一)、入學語(二)、茶館語、閑話(四)、雑語(三)、雑語(四)、閑語(五)、尋下宿語(一)、尋下宿語(二)、尋下宿語(三)、閑話(六)、牛乳舖語、歸宿語、雑語(五)、雑語(六)、轉宿語、雑語(七)、定做洋服語、定做靴子語、問疾語(一)、問路語(一)、問路語(二)、乘電車語、病院語、問疾語(二)、疾病語、診察語、散歩語、乘汽車語、雑語(八)、喫茶舖語、閑話(六)、鍔修繕語、雑語(八)、盜難語、申告書寫法、警察語、賀年語、面會語、日本語演說會、張君卒業、紹介依頼語、学校參觀語、辭別語

となっている。

留学生一人が来日から卒業して帰国するまでの主な生活の場面を網羅したわけではないが、主立った場面は、ほぼ尽くしたといつてよい。とりわけ、第二十二回 日本語演說會の場面は、類書に例を見ないものである。

内容見本② 實用會篇:中日對照 唐木歌吉著 王盛春訳 中東書局(明治39年12月刊)204-205頁……………

第4巻:

③漢譯日本口語文法教科書 松本亀次郎著 東京 笹川書店 大正8(民国7)初版 昭和13年5月訂正増補第18版

本書の「緒言」には、「舉例ハ、一々剽切ノ漢字ヲ充當シ、翻譯ハ主トシテ北京官話ヲ用ヒ、其ノ適譯ヲ發見セザル者ハ已ムヲ得ズシテ文語ヲ混用セリ」(3頁)という。實際、本書の中国語訳はすべての日本語に対訳式で附され、こなれた北京語である。これは、もちろん訳者の規範意識による共通語という限定はつくものの、北京語の資料価値が高いと言わなければならない。というのは、これだけの体系的な文法中心の日本語教科書にすべて中国語訳が附されたこと自体、同じく近代化の途上にある両言語の歩調の一致、乃至歩幅の違いもふくめて、あるいは両者の近代化の歩みの前後関係を、ここに見ることができるからである。ほんの一例を挙げると、例えば、

エイ一寸^{ミナツマ}皆様ニ申上ゲマス 唉、我說給^{ミタマエ}您們一點兒話哪。(298頁)

の二人称敬語の「您」に複数の「們」を付ける言い方について、おそらく諸家の見解の分かれるところであろうが、資料として現に存在することは、動かない。ちなみに、本書の中国語訳は、「悉ク錢稻孫先生ノ閱正ヲ經タモノデアル」(「増訂版發行ニ就イテ」)というから猶更であろう。

先の引用箇所が続いて、「由來本書の譯文ハ、讀者ノ比較研究ニ便ズル爲、務メテ原文ト語々相對スルコトヲ期シタノデ、往々措辭ノ妥當ヲ缺ク者ノ有ルヲ免レナカツタガ、今幸ニシテ、先生ノ親切丁寧ナ削正ヲ經タノデ、完全ニ此ノ缺點ヲ除去シ、本書ノ聲價ヲ一層高メ得タ次第デアル。」(「増訂版發行ニ就イテ」)と述べている。松本亀次郎自身も、教科書としては無論、本書の中国語訳の精確さを自負していた。

内容見本③ 漢譯日本口語文法教科書 松本亀次郎著 笹川書店(大正8年初版、昭和13年5月訂正増補第18版)298頁……………